

政務活動費（ 創世下関 ）出張報告書

平成 29年 5月 31日

<p>氏 名</p> <p>福田 幸博・亀田 博・林 真一郎</p> <p>吉田 真次・井川 典子</p>	<p>用 務</p> <p>仙台市</p> <p>・「せんだいリノベーションまちづくり」について</p> <p>岩手県紫波町</p> <p>・オガールプロジェクト研修</p>
<p>期 間</p> <p>平成 29年5月22日から</p> <p>平成 29年5月24日まで</p>	<p>出張先</p> <p>仙台市</p> <p>岩手県紫波町</p>

・仙台市

視察項目：「せんだいリノベーションまちづくり」について

(1) 事業の概要と経緯

2015年に家守、PPP エージェント、山守、田守といった人材を育成すべく取り組みを始めた。委員会を立ち上げ、全5回の「せんだいリノベーションまちづくり計画検討委員会」を開催。その中で各委員が仙台に対する思いを自由に発言し、今後のまちづくりを語りあった。従来型の委員会と異なり、パブリックマインドを強く持ち、自ら率先して行動する「責任ある事業者市民」が中心となり進め、逆に仙台市職員はプライベートマインドを強く持つ公務員たちが自主的に参加してきた。その結果、自主的に「公」と「民」が連携し、委員会の中で2つの家守会社が立ち上がった。

今後この「せんだいリノベーションまちづくり計画」は、取組む方々が共有しあう「ベンチマーク」となった。

(2) 行政の役割

公共空間や公共施設の公民連携による積極的な利活用を推進するが、その際、行政職員の役割として、「公」と「民」が議論するフラットテーブルである委員会に積極的に参加して行く。「公」と「民」が共にチームを作り、稼ぐ公共をテーマに公共空間や公共施設に向けた利活用の事業計画を作ることが大切である。そして事業実現に向けて、障壁というべき各種規制等については弾力的な運用や緩和について積極的に取り組むべきである。

(3) 仙台市に学ぶ公民連携型のまちづくり

今後の「まちづくり」に必要なのは、まちづくりを行っていく主体を巻き込みながら進めていくプロセスデザインです。

今までの役所を中心としてまちづくり計画では、実際にリスクをとらない関係者や事業を行わない有識者なので、絵に描いた餅のような計画となっていた。しかし、「せんだいリノベーションまちづくり計画検討委員会」は、自らリスクをとって、まちづくりの主体となれる人や実際に事業を行い、主導していくことが出来る人に注目をし、その方々が委員として活躍するなかで中心的な人材と成長していくことを目指した。その後、その事業者市民が、実際の投資を通じて事業を動かし、お金を稼ぎ、その資金をまちの活性化に再投資することが出来れば、今までと全く違った公民連携型のまちづくりのプロセスが見えてくる。

まちづくりの主体となる人が委員として自ら検討してきた計画であるから

これまでのような「絵に描いた餅」にならず、着実に実行へと展開し得る計画となったのである。

(4) 「民間主導の行政参加」を実現するうえでの課題や解決策

- ・民間主導ではあるが、事業立上時（計画策定・人材発掘等）には行政がかなり関わる。又、実際に事業化する際は、市在住の人材を多く見つけることと、事業化できる人を探すことが重要である。
- ・市と実行委員会の共済でセミナー等実施してるが、今後実行委員会が自主的に事業を立上、その事業で得た収入で組織を継続的に運営していけるかが課題である。少しずつ事務局機能の強化や自主事業の企画を進めて行く。
- ・市の中心市街地の特徴として、テナントビルの賃料が高く、起業したい人にとってはハードルが高いので、市としては、公共空間を使って起業する方を支援する方向性となっている。
- ・リノベーションが連鎖的に進んでいる状況とまでは至ってないので、これからの水平展開が課題である。

(5) 今後の課題と推進の展望

- ・人材の発掘と育成を行っているが、プレイヤー、不動産オーナーやマネージメントできる人材がまだまだ不足している。人材確保のセミナー等を開催していく。
- ・民間主導の事業であるため、継続して市の予算を計上できるかが不明。実行委員会が自立し、自主事業として人材発掘・育成事業を継続したい。
- ・公共空間の利用活用は、公園・緑地の活用が主だったが、今後は道路空間も含めて活用されることが想定されるので、歩行者の安全対策、自転車対策も含めて、道路管理者の理解が得られるように取り組む必要がある。

- ・岩手県紫波町
- ・オガールプロジェクト

紫波町は、JR紫波中央駅前の町有地 10.7ha を中心とした都市整備を図るため、町民や民間企業の意見を伺い、H21年3月に議会の決議を経て、紫波町公民連携基本計画を策定した。この計画に基づき始まった紫波中央駅前都市整備事業が「オガールプロジェクト」です。

「オガールプロジェクト」は、都市と農村の新しい結びつきを創造する。
暮らす、働く、学ぶ、集う、憩う、楽しむ拠点。

紫波の歴史や暮らし方を出発点として、新しく豊かで魅力的な“持続的に発展するまち”を目指している。

- ・紫波町公民連携基本計画

理念：都市と農村の暮らしをゆしみ、環境や景観に配慮したまちづくりを表現する場にする。

目的：「町民の財産」である町有地を活用して、財政負担を最小限に抑えながら公共施設整備と民間施設等立地による経済開発の複合開発を行うこと。

方針：町の特色を生かし、人に優しい統一感のある景観で住みよい町にする。

公共施設整備：交流、賑わいの場を創出するとともに快適でゆったりとした公共空間の整備を目指す。

経済開発：様々な雇用の機会を町民に提供するため民間の投資を誘導して活性化を図る。

- ・官と民が連携するためのエージェントの役割を担う、オガール株式会社を設立し、プロジェクトの推進、調整や不動産開発、企画管理運営、産直運営を行う。